

袋井市歴史文化館夏期特別展

よみがえる戦争の記憶展

— 身近にある戦争の歴史 —

開催にあたって

第二次世界大戦が終結して70年近く経過し、市民の戦争に対する記憶も薄れてきています。裏山に残された防空壕や旧軍隊基地跡などの戦争遺跡、戦地に行った兵士の持物など身近にある資料から戦争の歴史を知ることにより、今日の平和な時代を感じとってください。



弾痕跡

袋井市高尾陸橋の米軍艦載機による弾痕跡。ぶ厚い鉄板を貫通しています。



防空壕

袋井市赤尾浜垂神社裏山にほられた防空壕です。袋井の人々も米軍の空襲に備えていました。



民家の柱に残されていた弾丸

高尾陸橋北側の民家の柱内に残されていた米軍艦載機の弾丸です。

日清・日露戦争の記録

にしどろり
西同笠の寄木神社には、日清戦争から無事帰還した2名の兵士の姿を描いた奉納絵馬が残されています。絵馬には明治27～28年(1894～95)の日清戦争において日本陸軍豊橋第18連隊に従軍した二名の兵士が、終戦後に凱旋したおりの姿が描かれています。また、東浅羽村などに残されている日清戦争と日露戦争(明治37～38年1904～05)の忠魂碑には、多くの従軍者と戦死者の名前が刻まれており、絵馬のように無事帰還できた兵士は少なかったのです。



にしどろり
西同笠寄木神社絵馬
西同笠寄木神社蔵

日清戦争に行った2人の帰還兵の凱旋を祝って明治28年(1895)に奉納されました。



東浅羽村忠魂碑

中央が日清戦争(明治37年建立)、左が日露戦争(明治41年建立)、右が第二次世界大戦(昭和29年建立)の忠魂碑です。

高尾陸橋の弾痕と空襲の記憶

袋井駅東に昭和20年(1945)5月、米軍艦載機の機銃掃射を受けた際の、弾痕が残されていた陸橋がありました。近年の区画整理で新橋に付替えられましたが、橋の一部が新橋の北側たもとに残されています。また、軍事工場や陸軍航空隊の基地があった浜松市や磐田市では、米軍の空襲をたびたび受け、浜松市街ではいまもなお土中から不発弾や爆弾の破片が出土しています。袋井でも米軍の空襲に備えて「空襲警報発令中」の看板が残されています。



高尾陸橋

奥に見えるのが袋井駅で、手前の陸橋のあった東海道線の切り通しに列車が避難したところを、米軍艦載機が襲いました。



空襲警報発令中の看板 当館蔵

裏には「警戒警報発令中」と書かれています。

爆弾・焼夷弾・砲弾

浜松市博物館・個人蔵

浜松市街地、掛川市遠州浜射場地出土



残された従軍資料

今回の展示では豊橋第18連隊所属で、日露戦争に参加した梅山の金原長五郎さんの従軍資料を展示しました。金原さんの資料からは豊橋市吉田城跡にあった連隊基地図や基地清掃分担図、演習時に作成した肉筆の地形図、兵士の教科書や手引書を展示しました。袋井駅前の堀井常男さんの兄市郎さんは、第二次世界大戦の海軍航空隊の霞ヶ浦空偵隊他に所属しており、航空帽や防寒胴衣が残されていました。また、梅山の戸塚芳次さんが出征したおり戦地にもっていった慰問袋や千人針も展示しました。こうした資料から兵士に課せられた戦時訓練の様子や、戦地で死に直面した従軍の記憶を知ることができるのです。



海軍航空隊飛行士の航空帽と防寒胴衣
堀井常男氏蔵



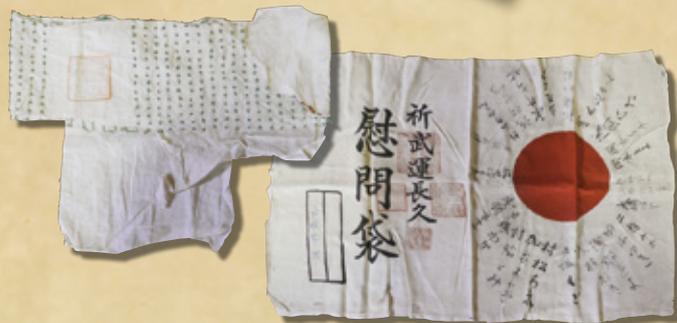
豊橋第18連隊基地図と演習時 作成地形図

金原勤氏蔵

明治・昭和の 兵士従軍教科書・手引書

金原勤氏・当館蔵

左が明治の書物、右の赤い冊子が昭和の書物です。



戦地に持っていった 慰問袋と千人針

戸塚美美子氏蔵

出征した動物たち

戦争に従軍したのは人間だけではなく、軍馬として出征した際に、武運長久を祈って作成された日の丸寄書があります。また軍用伝書鳩の存在を知ることのできる文書も展示しました。犬も軍用として徴用されていた記録があります。

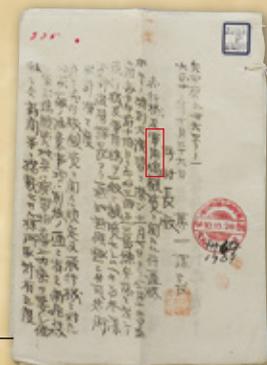


軍馬出征の日の丸寄書

戸塚美美子氏蔵

軍用伝書鳩が書かれた文書

当館蔵



戦争に総動員された人々

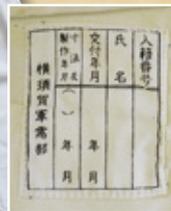
戦争時には出征した兵士だけでなく、戦争を支えた様々な人々の歴史が隠されています。豊浜小学校には福田の織物工場が軍事工場となり、そこに動員され従事した生徒の作業服があります。旧山梨町役場資料の中には、婦女子や学生が動員され、軍事工場に配属された名簿が残されています。また、掛川市横須賀の軍事工場に残されていた、弾薬箱や軍用船であげられていた航空機形凧のロープを巻いた器具なども展示しました。



織物工場の作業服

豊浜小学校蔵

神奈川県横須賀工場のタグが付けられているため海軍の徴用工場であったことが分ります。



弾薬箱と航空機形凧用器具

掛川市教育委員会蔵

弾薬箱と航空機形凧用器具。凧は敵航空機を威嚇するものでしょうか。



勤労学徒と女子挺身隊名簿

当館蔵

配属先の工場名などが記されています。地元浜松市以外で沼津市や名古屋市の工場にも配属されていたことが分かります。

歌われなかった校歌と墨塗りの教科書

第二次世界大戦前の浅羽5箇村(豊浜村含む)の小学校は、共通の校歌を歌っていました。現在でも浅羽北・南・東小学校ではこの校歌を歌っていますが、戦前教育色の強いと見られた4番は現在歌われていません。第二次世界大戦直後の教科書についても、武将の歴史や軍隊の記述には墨塗りをしたり、ページそのものを切り取って使いました。また、各学校には天皇・皇后の肖像と教育勅語が納められた奉安殿が造られ、皇国教育の象徴となっていました。戦後多くは撤去されましたが、袋井では八雲神社本殿として再利用されています。



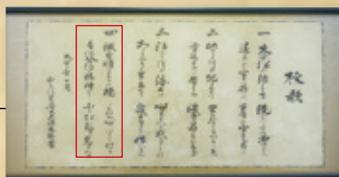
墨塗りされた教科書

磐田市教育委員会蔵

旧浅羽5箇村小学校校歌額

当館蔵

大正2年(1913)10月に磐田出身の陸軍大将大久保春野により書かれました。4番は現在歌われていません。



旧笠原尋常小学校の奉安殿で、現八雲神社本殿、伊豆石製の格式高い建物です。内部には木製厨子がおさめられていました。



戦争遺跡に行ってみよう

今回、身近にある戦争資料として、静岡県西部地域の戦争遺跡を取りあげました。廃墟となっているものや、現在でも倉庫や工場として使われているものなどがあります。戦争があったことを身近に知ることのできる遺跡なので、是非とも見学してみてください。(自衛隊基地、会社用地や民地として立入禁止の場所もありますので、立入可能な場所から見学するか、事前に所有者の了解を得てから見学してください。)

1 まきの はら おおい かいぐんこうくうたい 牧之原の大井海軍航空隊関連施設

所在地 牧之原市引原・沢水加

第二次世界大戦末期、太平洋各地の戦線が激化すると、昭和17年(1942)牧之原台地の一角に海軍飛行隊が置かれ、飛行訓練生の実践訓練を行いました。現在の矢崎部品漆原工場の付近にあり、約300haの広大な敷地内に司令部、兵舎、倉庫、病院、宿舎、格納庫、電探講堂がありました。しかしながら、建物は電探講堂(写真①)のみが、地域コミュニティセンター東側の農水省種苗管理センター内に残されています。電探講堂西方にも入口部分と思われる欄干状の構造物も残っています。

滑走路は現工場の南側にありましたが、全域茶畑となっており痕跡はまったく残っていません。その他の施設としては、国道473号線沿いに正門を利用したモニュメント(写真②)、その近くに地境として利用されている煉瓦塼の一部、簡易郵便局付近にコンクリート製の防空壕入口(写真③)と、司令所の基礎が残っています。茶畑の中に残されていた号令台は、近年撤去されました。地域コミュニティセンターは倉庫跡地に建てられている施設で、屋外に練習機白菊のエンジン、車輪、航空隊の時鐘が、屋内に航空隊の歴史や古写真が展示されています。



2 えんしゅうはま りくぐん ししやじょう かんてきしよ 遠州浜の陸軍試射場・監的所

所在地 掛川市浜野新田・御前崎市池新田

昭和13年(1938)、全国各地の軍事工場で造られた砲や砲弾の試射場が、遠州浜東部地区に造られました。砲弾の発射場は掛川市浜野新田地区、着弾地点は御前崎市池新田地区に設定され、それぞれ施設が残っています。

浜野新田地区は発射場であるため、砲廠(大砲の修理工場)の木造建物(現織物工場)(写真①)、大砲の木造保管庫、モルタル造の模擬爆弾製造所(個人宅倉庫)、コンクリート造の司令所、トンネル(隧道)(写真②)、大砲の台座(写真③)、弾薬運搬用のプラットホームなど多くの施設が残されています。建物は撤去されていますが、砲廠の基礎、弾薬を運んだ道路、軽便鉄道軌道の跡も確認できます。国道150号線用地内にかつて5階コンクリート造の気象観測所があったものの、道路建設のため取り壊されたといわれています。また、国道150号線北側にも事務所や守衛所がありましたが、撤去され現在見ることはできません。試射場にひかれていた軽便鉄道は、戦後静岡鉄道に払い下げられ、袋井～藤枝を結んだ「駿遠線」として利用されました。

池新田地区には着弾を監視するためのコンクリート造の監的所(写真④)と、試射場用地の標識となる石柱が残されています。菊川河口にも監的所があったといわれていますが、こちらは撤去されており現在残っていません。地元の方々の話によると、かつてはどちらの地区からも土中から大砲の弾、防風林として植えられた松木の中から鉄砲の弾が沢山採集できたといいます。これらの現在残されている試射場の施設は多種多様なものがあり、戦争の歴史を知るうえで静岡県内でも屈指の戦争遺跡です。しかしながら、藪の中に埋もれているもの、コンクリート建物や木造建物で老朽化が進んでいるものなどがあり、早急に保存対策が必要と思われるます。



3 はらのや なかじま ひこうき ちか こうじょう 原谷の中島飛行機地下工場

所在地 掛川市本郷・家代

第二次世界大戦末期、戦況の悪化とともに航空機の増産体制がなされました。昭和19年(1944)、浜松の宮竹工場を新設し、湖西の新居や鷺津の織物工場も接収して航空機エンジンの生産を開始しました。ところが同年11月の東南海地震により浜松工場は壊滅的な打撃を受けたこと、米軍の空襲が激化してきたことから、翌年より掛川の原谷に地下工場の建設を始めました。しかしながら、建設途中で終戦となり、エンジンはほとんど生産されずに終わってしまいました。

地下工場は本郷・家代の広範囲の丘陵地帯に1～6工区にわけられ、清水組や勝路組により工事が進められました。地上施設と100基以上のトンネル状地下工場が掘られ、作業員として多くの朝鮮人が酷使されました。一部ゴルフ場建設により壊されましたが、今なお多数のトンネル工場跡(写真①)が残っています。最近まで残っていた家代地区の木造飯場は、残念ながら最近撤去されてしまいました。



4 わだおか おおい こうくうたいだいに ひ こうじょう 和田岡の大井航空隊第二飛行場

所在地 掛川市吉岡・袋井市宇刈

昭和17年(1942)教之原台地に大井航空隊が設置されましたが、終戦間近に米軍の空襲が激しくなり、避難用滑走路として昭和20年和田岡に第二飛行場の建設を始めました。現在飛行場の痕跡はありませんが、瀬戸山地区(写真①)にあったと地元で伝承されていました。最近掛川市教育委員会が実施した試掘調査で、滑走路の整地土と見られる土層(写真②)が確認され、滑走路がほぼ南北に設定されていたことがわかりました。完成後に練習機白菊1機が着陸したのみで、終戦をむかえました。



(掛川市教委提供)

袋井市との市境、山梨に抜ける県道271号線南に飛行場の地下壕がかつて残っていましたが、近年の拡幅工事で破壊されました。袋井市宇刈地区の古墳時代横穴墓を再利用して、航空機燃料などの倉庫として利用していたことが伝えられています。

5 あけの きょうどう ひ こうだんてんりゅう ひ こうじょう 明野教導飛行団天竜飛行場

所在地 磐田市飛平松袖浦公園

明野教導飛行団とは、三重県度会郡明野に開校していた明野陸軍飛行学校のことです。第二次世界大戦の戦線拡大に伴い全国に分教所を設立して、航空機の研究と操縦士の養成を始めることになり、昭和15年(1940)竜洋の袖浦村にも分教所(天竜飛行場)が造られることになりました。昭和17年には面積200haの用地内に二本の滑走路と司令所、校舎、格納庫などの付帯施設が完成し、士官候補生を対象に飛行訓練が開始されましたが、終戦間近になると米軍の空襲が激しくなり廃校となってしまいました。



現在は袖浦公園内に格納庫の屋根を支えたコンクリート製の柱列(写真①)が残っており、その大きさを実感することができます。格納庫内部には自衛隊が使っていたF86Fジェット戦闘機も併せて展示されています。

6 いわ た ばら りくぐんだいいちこうくうじょうほうれんたい 磐田原の陸軍第一航空情報聯隊

所在地 磐田市見付かぶと塚公園

磐田台地の西端、かぶと塚公園とその一帯の地に、昭和17年(1942)太平洋に戦線が拡大すると、陸軍第一航空情報聯隊(秘匿名中部129部隊)が設置されました。この部隊は、第二次世界大戦で重要視されたレーダーや暗号戦術に対応するために、電波警戒機部隊として日本で初めて設置されました。太平洋全域の戦場に配属され、本格的な電波警戒や暗号戦術を駆使した部隊として活躍しました。



かぶと塚公園入口西側に、記念碑として部隊の門柱(写真①)、かぶと塚古墳の墳頂に機銃台座の基礎が残されています。公園南側と運動場東側の土塁は基地時代のもものと見られ、とくに東側土塁(写真②)には当時の鉄条網を設置した柱や、陸軍の銘が刻まれた地境の石柱が残されています。

7 よねづ だいば 江戸時代末期の米津の台場

所在地 浜松市南区米津町

幕末の黒船来航により外国との緊張関係が増すと、幕府は浜松藩に遠州灘防備のため、嘉永6年(1853)台場の建設を命じました。浜松藩主井上河内守正直は、家臣だけでなく町・村方も動員し、安政3年(1856)に台場3基を米津浜に建設しました。台場の規模は高さ27m(15間)、周囲72m(40間)の円丘に大砲3門を据えたもので、その内1基が現存しています。(写真①)基部を石垣で固め、頂部には石段で出入りができた穴蔵状の砲台でしたが、現在は頂部は大きく崩され裾部の石垣も確認できません。台場は浜松市指定文化財となっています。



地元には台場の砲弾が保存されています。花崗岩製の砲丸(写真②)で、近代的な炸裂弾ではなく、戦国時代以来の前近代的な大砲の砲弾でした。射程距離が短く、遠州灘沖を航行する軍船にとどくものではなかったと伝えられています。

8 しぶかわ にちろ せんそうがいせん きねんもん 渋川の日露戦争凱旋記念門

所在地 浜松市北区引佐町渋川六所神社

明治38年(1905)日露戦争が終結したさい、帰還する兵士を歓迎するための凱旋記念門が各地に造られました。現在のところこの凱旋記念門は、鹿児島県始良市と浜松市渋川に残されているだけとなりました。

門は渋川集落南の県道47号線に面した六所神社入口にあります。(写真①)フランス積み煉瓦造アーチ式の門で、柱間は約3m(10尺)、高さ約3.2m(10.7尺)を測ります。アーチ上部には緑色片岩製の「凱旋記念門」と彫られた石版が埋め込まれ、石製の基礎には明治36年(1903)6月に地元渋川村の人たちが寄付で門を造ったこと日清・日露戦争従軍者の名前が刻まれています。この門は県内初期煉瓦造の構造物として、全国の登録有形文化財に指定されています。



9 りくぐんなかの がっこうふたまたふんこう 陸軍中野学校二俣分校

所在地 浜松市天竜区二俣町

陸軍中野学校とは諜報活動や、ゲリラ戦術養成を目的とした訓練をおこなった陸軍の学校のことです。昭和19年(1944)にこの陸軍中野学校の分校が、二俣町の旧工兵第三連隊の兵舎を利用して開校されました。二俣分校はこれに加えて、三方原の陸軍飛行場を防衛する訓練も行いました。短期間ではありましたが4期800人以上の将兵が卒業し、各地の戦線に派兵されました。ちなみに、戦後ルバング島から帰還した小野田寛郎元少尉も、二俣分校の卒業生でした。

二俣分校は現在の浜松市天竜区役所付近にあったとされ、区役所入口に分校跡の石碑と、その前に渡河訓練用船舶の礎、軍用地境の石柱二本が展示されています。(写真①)礎は当時珍しかったステンレス製で、豊橋の第18連隊工兵部隊が天竜川で使用した訓練船の礎といわれています。



10 どくりつせんしゃだいはちりょだん せんしゃえんたいごう 独立戦車第八旅団の戦車掩体壕

所在地 浜松市浜北区宮口

昭和20年(1945)になると沖縄が陥落し、米軍の本土空襲も激化すると、軍部を中心に本土決戦が叫ばれるようになりました。米軍の遠州浜上陸戦に備えて、豊橋より浜名湖北岸に独立戦車第八旅団と呼ばれた戦車部隊が配属され、司令部は三ヶ日に置かれました。

遺構は豊橋側の葦毛湿原周辺に燃料貯蔵用や兵員の壕があり、浜名湖北岸から浜北区宮口にかけては戦車を防御するための掩体壕が各所に掘られました。その内の一つが、宮口地区の三方原東斜面の国道365号線脇に今でも残っています。(写真①)また、最近話題になった、当時の最新式戦車であった四式中戦車チトの試作車が2台配備され、終戦直後一台が浜名湖の猪鼻湖入口の瀬戸に沈められたといわれています。



11 りくぐん ひ こうだいななれんたい みかたがはらばくげきじょう 陸軍飛行第七連隊と三方原爆撃場

所在地 浜松市北区豊岡町・初生町・東区半田町・中区葵東ほか

昭和元年(1926)浜松陸軍飛行第七連隊が三方原に配備されました。この部隊は爆撃を主たる任務としたため、三方原台地北部に爆撃訓練場、その南部に飛行場が置かれました。なお、この爆撃航空隊は中国の重慶を始めとし、東南アジアや沖縄、サイパンの爆撃に参加しています。

部隊の司令部は現本田技研浜松工場にあり、工場内には将校の集会場(写真①)が、葵東公民館前に門柱が今でも残っています。初生町の住宅地の中には、基地の排水調整池であるコンクリート壁で囲まれた長池があります。

爆撃訓練場は豊岡小学校周辺の広大な地域にありました。豊岡幼稚園には爆撃の様子を観察するための監視所があった小山が前庭に、また爆撃場に関係したコンクリート製の円形掩体壕(写真②)も、小学校北東方向の民家内に残されています。

三方原台地半田地区には、本土決戦部隊である第143師団のコンクリート製トーチカ(写真③)があり、半田地区宅地造成の際には、第143師団の航空機掩体壕や兵士の塹壕が多数発掘調査されました。



12 はままつりくぐん ひ こうがっこう 浜松陸軍飛行学校ほか

所在地 浜松市西区西山町・北区東三方・中区和地山・住吉・鹿谷・城北ほか

昭和8年(1933)浜松陸軍飛行第七連隊の練習部隊が、陸軍飛行学校として独立し、飛行訓練生の養成を始めました。司令部は現航空自衛隊浜松基地内に置かれ、滑走路も整備されました。司令部の木造隊舎(写真①)は、近年まで自衛隊の基地資料館として利用されていました。現基地滑走路南には地下指揮所跡、正門北には警備要員のいた哨舎があるといわれています。

昭和19年(1944)浜松陸軍飛行学校は浜松陸軍教導飛行団と改称され、航空機による毒ガス攻撃の研究と訓練をする部隊となりました。施設は基地北方の現自衛隊官舎のある場所にありました。南と北門の門柱が残されています(写真②)が、北門の門柱のうち一本は撤去され、貯水槽も最近撤去されました。

このほか陸軍関連の施設が、航空自衛隊基地周辺に沢山残されています。浜松リハビリ病院内には、陸軍病院用地境の石柱と、昭和13年(1938)陸軍により建てられた「皇恩無窮」の石碑があります。陸軍墓地は現平和公園にあり、用地境の石柱や撤去された忠霊殿跡が小山のように残っています。浜松城交番交差点付近には、かつて憲兵隊があり用地境の石柱が、初生町浄水場北の工場には旧中部97部隊の門柱があります。静岡大学浜松校には高射砲第一連隊、隣の和地山公園には部隊の練兵場がありました。大学用地、四方の道路境に土塁が、北東隅に煉瓦造の門柱と、北門の門柱(写真③)が今でもよく残っています。



13 はまなかいへいだん ぼうくうごう じんち 浜名海兵団の防空壕と陣地

所在地 湖西市新居・中之郷

海兵団とは海軍海兵の新兵や下士官を教育する陸上部隊のことで、横須賀・呉・佐世保・舞鶴に鎮守府が置かれていました。太平洋での戦線が悪化した昭和19年(1944)さらなる新兵教育のため11の海兵団新設が計画され、新居にも海兵団が配備されました。司令部は現交通公園付近を中心とした場所にあり、鷺津には海軍技術研究所鷺津分所もおかれました。残された遺構は少ないが、新居の畑地中にコンクリート製のかまぼこ形防空壕(写真①)が民地の納屋として残されています。



昭和20年(1945)になると本土決戦に対応するため、海兵団から浜名警備隊に改称し、新居や鷺津の裏山、新居浜に塹壕やトーチカが設けられました。中之郷浜名部品工業工場裏山や鷺津の分川跨線橋西側丘陵には、現在でもコンクリート製トーチカ(写真②)や塹壕を見ることができます。

14 ほんどけっせん めがうらしんようとつこうきち 本土決戦! 女河浦震洋特攻基地

所在地 湖西市女河浦

昭和20年(1945)本土決戦部隊の一つとして、遠州浜の海防にあたった浜名警備隊は、鷺津北方の女河浦に特攻兵器震洋の基地を造り始めました。震洋とは一人ないし二人乗りの小型モーターボートで、船首に炸裂火薬を搭載し、敵艦に体当たりする特攻兵器で、粗悪なベニヤ板製のものもあったようです。



(椿原靖弘氏提供)

現在の女河浦海水浴場の南側の山に塹壕、海岸に震洋の掩体壕を建設する予定(写真①)でしたが、塹壕5本掘ったところで終戦となり未完成に終わりました。静岡県沿岸部の震洋特攻基地は、御前崎市御前崎、静岡市清水区三保、沼津市江浦、下田市和歌ノ浦、東伊豆町安良里・稲取、南伊豆町湊に造られましたが、目立った戦果はあげられませんでした。三保(写真②)や江浦基地跡(写真③)には震洋の掩体壕が今でも残っています。



(沼津市教委提供)

静岡県西部戦争遺跡位置図 (図中番号と解説文番号と一致しています)



- 1 海軍大井航空隊
- 2-1 陸軍射場(着弾地)
- 2-2 陸軍射場(発射地)
- 3 地下工場
- 4 海軍大井航空隊第二飛行場
- 5 海軍天竜飛行場
- 6 陸軍第一航空情報隊
- 7 米津台場
- 8 凱旋記念門
- 9 陸軍中野学校
- 10-1 陸軍戦車掩体壕
- 10-2 水没戦車
- 11 陸軍第七連隊ほか
- 12 陸軍飛行学校ほか
- 13-1 海軍浜名海兵団
- 13-2 トーチカ
- 14 海軍震洋特攻基地

資料提供者 御前崎市教育委員会 磐田市教育委員会 磐田市立豊浜小学校 掛川市教育委員会 航空自衛隊浜松基地 (敬称略) 西同笠寄木神社 浜松市博物館 浜松市立新津小学校 沼津市教育委員会 金原勤 高尾好之 椿原靖弘 戸塚芙美子 中井均 堀井常男 溝口彰啓

参考図書 掛川市 『掛川市における戦時下の地下軍需工場の建設と朝鮮人の労働に関する調査報告書』1998年
静岡県教育委員会 『静岡の中世城館跡』1981年
静岡県戦争遺跡研究会編 『静岡県の戦争遺跡を歩く』2009年 静岡新聞社
伊藤厚史 「愛知県東部における本土決戦準備4」2000年 『三河考古』13号
清水 勇 「陸橋にのこる戦争のキズあと」1987年 『ふるさと袋井』第2集
静岡県近代史研究会編 『史跡が語る静岡の十五年戦争』1994年 青木書店

編集発行 袋井市歴史文化館 〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地(浅羽支所内) TEL.0538-23-9269